

岡崎むかし館

かけどけい 掛時計

(愛知学芸大学 卒業生記念品)



岡崎むかし館

6月10日は、時の記念日です。日本で初めて、天智天皇が漏刻(水時計)を作って時を知らせたのが、天智10年(671)4月25日(太陽暦の6月10日)であったのにちなみ、大正9年(1920)に時間の大切さを尊重するために定められました。そこで、6月の「学べる道具」では岡崎の教育史に関係する時計をご紹介します。

この少しくラシックなデザインの掛時計には「贈/AICHI TOKEI*」、側面に「昭和二十五年
度愛知学芸大学 愛知第二師範学校卒業生一同」と記されており、卒業記念として母校に贈られたものとわかります。愛知学芸大学(昭和24年5月～)は、愛知教育大学(昭和41年4月～)の前身で、県内にあった3つの師範学校[愛知第一(名古屋)、愛知第二(岡崎)、愛知青年(安城)]を統合した大学です。師範学校から大学に昇格した頃の過渡期の卒業生のため、2つの校名が併記されています。統合した大学本部の誘致については「学大問題」といわれ、当時の岡崎市長が先頭に立って誘致を行い、昭和26年4月から昭和45年3月まで岡崎市 明大寺町に大学本部が置かれました。

この直径84cmある大きな掛時計は、岡崎にあった大学の講堂に掲げられていたもので、大学が現在の刈谷市に移転する時に、人に譲り渡されたそうです。今でも、ぜんまいを巻けば静かに時を刻み出します。

※ 愛知時計：1898年(明治39)に名古屋で創立した会社で、現在も愛知時計電気株式会社として計測機器などを製作